

あきざわ ゆきあつ
ヒーローズ エデュテイメント 会長 秋沢 志篤氏 ①

わが道
わが友

私は、常に時代においてかきながら道を探して歩き続けてきた。後ろを振り返っている余裕はなかった。「過去と他人は変えられない。将来と自分は変えられる」というのを信条にしてきた。現在も、社会の構造を手直しする絶好のチャンスととらえ、目の前の仕事に懸命に取り組んでいる。

日本は今、少子高齢化が急速に進んでいる。全人口に占める15歳未満の比率は平成12年の14・6%から50年後には8・6%に低下し、逆に65歳以上の比率は17・4%から39

・6%に上昇すると試算されている。平均寿命も急伸。つい100年前までは「人生50年」といわれていたのが、今は約80歳だ。

かつては60歳を超えたら「余生」であり、年金・福祉など社会の仕組みもそれを前提につくられている。しかし、少子高齢化の進展によって、60歳以上の人たちの働き方を大きく変えていかねばならなくなっている。そうしないと、若い世代に大きな負荷をかけることになり、日本の社会そのものの将来が危ぶまれるからだ。

一方で、核家族化・デジタリ化が進み、職場や親戚、地域との肌のふれあいが激減。人と人とのつながりが希薄に

〈略歴〉昭和18年生まれ、神奈川県出身。成蹊大政経卒。41年、共同石油(現ジャパンエナジー)入社。コンビニエンスストア「am/pm」事業を立ち上げ、エーエム・ビーエム・ジャパン社長、会長を経て、平成18年から特別顧問。同年から現職。近著に『「オキテ破り」が人を動かす!』(日本実業出版)。

なる中で、不登校や児童虐待が増えるなど、特に精神的に弱い子供や若い親が増えていくという調査結果がある。つまり、これからは担っていく子供の数が少なくなっているうえに、生きていく資質も弱

くなってきたという不安を強く抱く。

そこで私は、今こそ、志を同じに持つ高齢者から若い世代の人々が縦につながって取り組む新しい仕組みをつくっていくべき時だと痛感する。

合言葉は「子供たちの後押し/次世代創り」だ。親友で千葉ロッテマリーンズ監督のポビー・バレンタインさんをは



心拓塾の春季キャンプでポビー・バレンタインさん(左)と平成20年3月、千葉・木更津

じめ、各界のヒーローの力を借りて次世代の「リーダー創り」に取り組もうと考え、平成18年に「ヒーローズエデュテイメント」を設立、小学生とその保護者を対象にした親子塾「心拓塾」を東京都内で開講した。

講師はスポーツ、文化、芸能、財界、官界などで名をなしている一流の人たちばかりだ。例えば、この10月はラードライバーの篠塚建次郎さん、バルセロナ五輪馬術日本代表の後藤浩二朗さん、内閣官房宇宙開発戦略本部事務局長の豊田正和さんにお願した。彼らヒーローは子供たちの心を拓かせ、聞く耳を持たせる力を持っている。

当面、この心拓塾を全国展開し、少子高齢化時代によさわしいビジネスモデルとして確立。4年後をめどに株式市場するのが私の目標だ。

次世代のリーダーづくりに取り組む